

令和3年度
学校関係者評価報告書

令和4年6月
昭和大学医学部附属看護専門学校

I 重点事業について

1 重点目標（1）教育 について

①取組課題

・専門教育の充実

【事業計画】

2022年度のカリキュラム改正を踏まえ、地域・在宅看護論、フィジカルアセスメント、看護と統合の実践をより充実させる。

対象理解を向上させるために、臨地実習の再構築を行う。

遠隔授業と対面授業を並行し、より効果的な知識・技術の獲得を図る。

医学部教育推進室と連携し、包括的にアセスメントする力を養う。

【計画の達成度】

地域・在宅看護論、基礎看護学、統合分野で検討を行い、新科目の設定や内容の整理を行った。今後は、2023年度の臨床教員制度導入に向け、再度カリキュラムの見直しと再構築を行っていく。

ワークショップで実習評価について検討した結果を基に、各領域での評価内容・評価方法の考え方の統一を図った。

昨年度に引き続き、医学部合同PBLを実施し、学内でも同事例の展開を題材にPBLを行った。学生の討議への参加態度や発言内容の変化から包括的アセスメント能力の向上につなげることができた。次年度以降も継続していく。

②取組課題

・カリキュラムの改革

【事業計画】

2022年度のカリキュラム改正を踏まえ、授業科目・単位、臨地実習の在り方などの再検討を行う。

臨地実習のコース・ユニット制の導入を行う。

実習評価に、ルーブリックを導入する。

【計画の達成度】

新カリキュラムの申請を行い、文部科学省から許可を得ることができた。

臨床教員制度導入のプロジェクトが立ち上がり、検討を進めている。

全領域でないが、実習評価として部分的にルーブリック導入を始めている。

③取組課題

・キャリア支援

【事業計画】

学生が自己の能力や適性、志願に応じて、卒後の進路を主体的に選択し、社会的・職業的な自律を図るために必要な能力を培うために、学生自身が目標を立案し達成のための支援を強化する。

【計画の達成度】

学生は自己の目標を、マンダラチャートのフォーマットで作成し、年3回担当教員と面談を行うことで強化している。

2 重点目標（2）学生の受け入れ について

④取組課題

・学習と評価

【事業計画】

遠隔授業と対面授業の並行となるため、IT化を進め、ポートフォリオを活用した学習と評価の導入をする。

【計画の達成度】

ポートフォリオシステムの導入に至らず、実施できなかった。

3 重点目標（3）その他

⑤取組課題

・自己点検・自己評価活動の推進

【事業計画】

内部質保証による教育・研究活動の充実に繋げるための自己点検・自己評価を引き続き実施する。

【計画の達成度】

自己点検・自己評価の項目を見直し、実状に適合した評価に改訂した。コロナ禍であり、改善が難しいものが多かったが、新規事項として、学生からのご意見箱の設置や、教員の臨床研修などを導入し、評価を向上させることができた項目もあった。詳細は、自己点検・自己評価の結果を参照のこと。

⑥取組課題

・教員の育成

【事業計画】

臨床研修を計画的に実施し、教員ラダー評価の向上を目指す。

【計画の達成度】

臨床研修を実施することができた。

各教員に対してラダー面接を導入し、課題項目を明確化することで、教員の能力向上への意識づけを図ることができた。今後も継続して実施していく。

II. 各評価項目について

1 学校経営

学校法人昭和大学の財政支援の基に、学生に必要かつ快適な教育環境を提供できる財務体質を備えている。予算管理については法人本部から妥当性について毎年ヒアリングを受け年間予算を決定している。また、学校組織図、会議組織図を定期的に見直し、会議運営の見直しを図っており、学校経営は組織的に行われている。

昭和大学医学部附属看護専門学校評価規程を定め、学校のビジョンおよびそれを実現するための組織目標を策定し、中間評価を実施し、後期に活かしている。責任者会議やリーダー会などを通じ、活動を可視化することで、チーム力を発揮した問題解決が行われている。

引き続き、学校経営をしていく上で、法人今後の計画・目標について、教員が十分承知しておくことが大切と考えられるので、周知方法の工夫なども検討されたい。

2 教育課程・教育活動

卒業時に持つべき資質として、教育理念と一致した教育目標・ディプロマポリシーが設定されており、卒業時の達成度評価が実施できている。

例年のワークショップでは、時代の要請を意識したテーマで討議され、シラバスに反映されている。各科目では、具体的な学修目標・学修内容が掲載されており、チーム医療を推進している貴校の独自性もシラバスに盛り込まれている。授業評価として、学生による授業評価、教員間での授業参観による他者評価を行い、授業内容の改善に役立っている。

また、コロナ禍の中でも教育の質が低下しないように、講義では、学習内容・学習方法・時間割が随時検討され、遠隔授業と対面授業の住み分けやバランスが考慮されている。今後、感染状況が落ち着いていく中での遠隔授業と対面授業の在り方などの検討が望まれる。

実習では、感染予防対策を優先に実習環境が整備され、病棟への実習日数・学生数の調整が行われていた。コロナ禍であったが、法人のバックアップの基、随時調整を行いながら、可能な範囲で実習病棟が確保されており、概ね予定通り実習ができています。学習する環境は整備され、指導者・教員ともに連絡調整を行っている。指導者会は、オンライン上で開催したが、対面での開催時に比べ、十分な意見交換や学習会などができなかつたようで、今後は、実施方法などを検討されたい。また、昨年度課題であったインシデントレポートの活用などは、カンファレンステーマでの活用やクラスルームでの学生への周知など、学生指導に活かせる体制の整備がされている。

学生指導においては、自己分析結果を参考に面談等を通して指導の場を設けている。コロナ禍で登校する機会が減り、成績不良者に対して定期的な学習会の開催が難しい側面があったが、各担任が、個別に遠隔や短時間の対面での学修指導などを行うなどの工夫がされている。しかし、教育方法及び学習指導について、多様な学生への対応は教員の個人の力によるところが大きく、学校として教育力を向上させるために、学会や研修会へ計画的に参加し、報告会等で新たな教育手法、学生指導方法を模索、検討されたい。

国家試験の合格率・就職率ともに良好であることから、貴校の教育水準は一定の水準に達していると考えられる。

3 入学・卒業対策

昨年度に引き続き多くの入学者を確保する為に前年度の結果を分析し、志願者の確保に努めている。志願者の要望を取り入れ、感染予防に留意し、オープンキャンパスや個別訪問などの開催を復活できている。150名の入学定員を確保できているが、地元志向や大学志向などから、志願者が減少傾向であるため、貴校の強みをより一層アピールし、志願者の確保が望まれる。

また、質の高い卒業生を輩出する為に、低学年から学年・クラス担当で個別指導を行い、随時保護者とも面談する学習支援体制が整っており、国試合格率は卒業生も含め100%と常に高い水準を維持している。卒業後は、昭和大学関連病院の就職率が高いが、各自の能力や希望に応じて進路を決定できている。、今後は、ホームカミングデーなど、卒業生同士の絆が深められるような企画も望まれる。

4 学生生活への支援

学生が修学を継続するために進学・就職に関しては、業者による説明・指導やキャリア支援室による就職ガイダンスを行い、先輩との就職懇談会も実施し情報提供ができています。奨学金制度もあり、学生相談室・保健管理センターも設置され、学生生活への支援体制が整っている。

中止していた学生への実習室の貸し出しも再開され、技術修得への支援がされている。

コロナ禍の影響により、2年ほどクラブ活動への参加が滞っていたが、令和4年度から大学のクラブ活動へ参加できる体制の調整が行われることは、学生の自主活動の支援として望ましい。

5 管理運営・財政

事務課から予算計画や事業計画等について説明がなされ、教職員に周知されている。昨年度と継続し予算計画、年間事業計画を策定し、教員の組織に分野・委員会を設置し、在庫・予算管理を行っている。今後は更に予算決算管理及び昨年度対比による分析等の取り組みをされたい。

なお、引き続き学生や教職員等の人権・個人情報の保護については、徹底した取り組みがなされている。災害等が発生した場合の防災マニュアルの見直しに取り組んでいるとのことであるが、早急な完成と周知が望まれる。

6 施設・設備

施設・設備については予算措置を図り毎年見直し整備されている。施設・設備の安心、安全は、確保されている。教育目標達成に必要な施設設備・教材は整っている。実習室の物品もインベントリを行い、時代に応じた必要な教材を整えている。図書室は専任の司書がいて、十分活用できている。大学の学生ホールや食堂の利用も再開されている。

新カリキュラムで強化に挙げられているICT教育を活用できる教育環境をさらなる整備が望まれる。

防災については、ロビーに防犯に関するビデオカメラが設置され、被災事態を想定し備蓄品の点検が行われている。しかし、備蓄品の周知や種類が不足しているものもあるため、早急に準備するなどの検討が望まれる。

7 教職員の育成

新カリキュラムに関するオンライン研修を実施し教員全員が参加している。他校とオンラインで授業や実習の取り組みについて情報交換を行い教員に情報を提供している。

昨年度、計画されていた臨床研修制度が導入され、教員の質の向上が図られている。また、教員の研修や学会への参加が再開されたが、参加後の伝達講習会等の機会が設けられておらず、次年度は実施できるよう計画的な取り組みが望まれる。

全教員が授業を公開し、授業後の評価会を行っているので今後も継続し実施していただきたい。しかし、教員が授業資料の作成や日々の授業に追われ研究活動を行う時間が確保されていないため研究活動を行えるような工夫や体制を整備する必要がある。

「教職員の育成」の評価が低いため、教員の学会・研修報告の復活やラダー評価などの強化を優先事項として取り組んで欲しい。

8 広報・地域活動

オープンキャンパスや学校説明会の開催案内、入学式、卒業式、戴帽式等の式典を適宜ホームページに掲載し活発に情報を発信している。

近隣の小学校への授業協力は継続しているが、コロナ禍の影響により予定していたボランティア活動や地域への活動ができてない。コロナが収束した状況で、地域への広報・貢献・奉仕活動・連携として、大学の行事を通じて地域との連携を強化し継続して欲しい。

教職員が意識を高め地域に何が必要とされ、何ができるのかを考え学生が主体的にボランティア活動などができるような環境を整えるなどの学生支援を強化して欲しい。

以 上